

大学院単位認定

この公開講座・セミナー・シンポジウム等は大学院医学研究科の単位認定対象となっております。単位認定の条件や対象科目等は下記をご確認ください。

単位認定条件

大学院生の方は、受講後、「出席票」を教務課(大学院担当)までご提出ください。
出席票は、履修管理システムからダウンロードすることができます。

【履修管理システム】

博士課程 : <http://lms.juntendo.ac.jp/>

修士課程 : <http://mst.juntendo.ac.jp/>

認定科目

【博士課程】

Current Topics ※必修「大学院特別講義」に振り替えることはできません。

【修士課程(医科学コース)】

選択科目「**大学院セミナー**」

順天堂大学大学院医学研究科 環境医学研究所
共催：順天堂大学大学院医学研究科



第22回環境医学研究所 プロジェクト研究報告会

2025年5月16日 (金)

18:00～20:00

Web開催

1. 2024年度環境医学研究所 プロジェクト研究報告

(タイトル番号：1～13)

2. 2024年度環境医学研究所 研究成果報告

(タイトル番号：14～31)



* 5月14日(水) 正午までにお申込みください

参加申込先：kanken@juntendo.ac.jp

当日までに招待URLのご案内メールをお送りします

詳しくは環境研HPをご覧ください

第22回環境医学研究所 プロジェクト研究報告会 発表タイトル

2025年5月16日（金） WEB開催

討論時間 奇数：18:00～19:00 / 偶数：19:00～20:00

No.1～13：2024年度環境研 プロジェクト研究報告		No.14～31：2024年度環境研 研究成果報告	
1	糸魚川義昭 抗酸化剤および上腕二頭筋腱移植は腱板修復モデルにおいて修復強度を上げることができるのか	14	宇藤 優 アトピー性皮膚炎患者における機械的アロネーシスと病勢パラメータの相関分析
2	伊藤 匠 IL-26が亢進する細胞の老化とエピジェネティクモデリング機構の解明	15	大野祐介 極長鎖脂肪酸の生理的意義とその代謝異常による病態発症機構の解明
3	梅原芳恵 NC/Ngaマウスのアトピー性皮膚炎発症におけるLDLRの役割解明	16	鎌田弥生 ヒトiPS細胞由来感覚神経共培養三次元培養皮膚モデル構築の試み
4	遠藤大介 大動脈弁閉鎖不全に併発する上行大動脈拡大の性差医学	17	古宮栄利子 加齢によるかゆみの誘発機構の解明
5	熊谷由美 環境汚染物質LPSによる敗血症の病態を好中球細胞外小胞が制御するメカニズムの解析	18	白鳥美穂 痒み伝達を担う脊髄後角神経サブセットに関する研究
6	佐々木 和教 糖鎖認識レクチンを用いた膵がん発症機構の解明と診断への応用	19	ZUO YING Repeated Social-Defeat Stress Increases Skin TSLP and Mechanical Allodynia in NC/Nga Mice with Atopic Dermatitis.
7	曾 友深 マンガン輸送体TMEM165の分解機構の解明	20	趙 巧鳳 Decreased responsiveness to chemical itch with age in mice.
8	千葉麻子 トル様受容体刺激により誘導されるB細胞の細胞老化と自己反応性の関係	21	飛田知央 アトピー性皮膚炎の病態形成におけるGm94遺伝子の機能解析
9	ハイジツヒ・ペアーテ アンジオクライン因子による“かゆみ”の制御機構の解明	22	外山扇雅 難治性かゆみの発症における好酸球の役割の解明
10	三田佳貴 腸管由来の自然T細胞と骨格筋との相互作用に関する研究	23	中山仁志 抗酸菌感染におけるFc受容体の役割に関する検討
11	宮木貴之 アレイトモグラフィーを活用した表皮内神経終末の3D構造解析	24	新田昂大 ガラビオシルセラミドのTLR4を介した炎症促進作用と病態への関与
12	安川武宏 抗癌剤投与時の癌微小環境因子が線維芽細胞に惹起する応答を基盤とした膵癌オルガノイドタイプング法の確立	25	花房 慶 細胞外環境ストレスとグルコシル化リン脂質の生合成について
13	山下和成 癌関連線維芽細胞を減少させる薬剤と抗癌剤の併用による食道癌・乳癌の治療法開発	26	早川国宏 自己免疫誘導による腸内細菌叢の変化と体内移行が自己抗体産生に与える影響の解析
		27	藤城真樹 ループス腸間膜血管炎発症における腸内細菌叢の関与
		28	本田耕太郎 痒み強度を反映する搔破行動の反復原理の統計モデル化
		29	森田元樹 脊髄Sema3Aによる痒み調節機構の解明
		30	吉川宗一郎 精神的ストレスが皮膚アレルギー炎症を増悪させるメカニズム
		31	久米泰治 Conjunctival goblet cell-associated antigen passage serves as a target for both allergy prevention and drug delivery.

